

樞密院會議筆記

一 朝鮮總督府海員審判所職員ノ任用ニ關スル件

一 關東局官制中改正ノ件  
一 奏任文官特別任用令中改正ノ件

一 臺灣總督府地方官制中改正ノ件  
一 臺灣總督府地方官制中改正ノ件

一 外務省官制中改正ノ件  
一 朝鮮總督府官制中改正ノ件



寺内陸軍大臣 七番

林 司法大臣 八番

馬場大藏大臣 九番

前田鐵道大臣 十番

潮 内務大臣 十一番

島田農林大臣 十二番

頼母木遞信大臣 十三番

永田拓務大臣 十四番

平生文部大臣 十五番

小川商工大臣 十六番

有田外務大臣 十七番

顧問官

黒田顧問官 廿一番

櫻井顧問官 廿二番

河合顧問官 廿三番

鈴木(實)顧問官 廿四番

石井顧問官 廿五番

有馬顧問官 廿六番

原 顧問官 廿七番

窪田顧問官 廿八番

元田顧問官 三十番

鈴木（滋）顧問官 卅一番

石塚顧問官 卅二番

坂本顧問官 卅三番

石渡顧問官 卅四番

清水顧問官 卅五番

藤澤顧問官 卅六番

林 顧問官 卅七番

上山顧問官 卅八番

關席員

皇族

雍仁親王 一番

宣仁親王 二番

崇仁親王 三番

載仁親王 四番

顧問官

金子顧問官 十九番

石黒顧問官 二十番

栗野顧問官 廿九番

委員

次田法制局長官

樋貝法制局參事官

森山法制局參事官

以上各件二付

增田對滿事務局事務官

關東局官制中改正ノ件三付

東郷外務省歐亞局長

秋山外務書記官

日高外務書記官

以上外務省官制中改正ノ件三付

廣瀨社會局長官

山崎社會局部長

以上奏任文官特別任用令中改正ノ件三付

萩原拓務省管理局長

朝鮮總督府官制中改正ノ件、臺灣總督府地方官官制中改正ノ件、臺灣總督府海員審判所職員ノ任用ニ關スル件ニ付

朝鮮總督府海員審判所職員ノ任用ニ關スル件及

ル件ニ付

川村臺灣總督府事務官

臺灣總督府官制中改正ノ件、及臺灣總督府地方官官制中改正ノ件ニ付

報告員

村上書記官長

書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長(平沼)

之ヨリ會議ヲ開ク

外務省官制中改正ノ件

朝鮮總督府官制中改正ノ件

臺灣總督府官制中改正ノ件

臺灣總督府地方官官制中改正ノ件

關東局官制中改正ノ件

奏任文官特別任用令中改正ノ件

朝鮮總督府海員審判所職員ノ任用ニ關ス

ル件

以上七件ヲ一括シテ議題ニ供ス第一讀會ヲ

開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査報告ヲ為サシム

報告員(村上) 謹デ此ノ七件ノ審査ノ結果ヲ順

次説明スベシ

第一外務省官制中改正ノ件

本件ノ要旨ハ下ノ二點ニ在リ(一)現在外務

省歐亞局ニハ第一課及第二課ノ二課ヲ設

ケ大體ニ於テ第一課ハソガイ工ト聯邦及

之ニ隣接スル諸國ニ關スル事務ヲ掌理シ

第二課ハ其ノ餘ノ歐洲諸國印度西部亞細

亞及亞弗利加諸國並ニ西南太平洋ニ面セ

ル諸地域ニ關スル事務ヲ掌理セルモ近時

歐洲ニ於ケル國際政局益々多事多難ナル

ニ加ヘテ佛領印度支那英領馬來英領ボル

ネオ蘭領東印度諸島濠洲新西蘭其ノ他西

南太平洋諸地域ニ於ケル本邦人及其ノ企

業ノ進出漸ク見ルベキモノアリ且今後倍

々進展セントスルノ氣勢アリ爲メニ該地

域ト帝國トノ關係ハ政治的ニモ經濟的ニ

モ頓ニ重要ヲ加ヘ該地域ニ於ケル在留本

邦人ノ保護及本邦權益ノ確保伸暢ニ關ス  
ル事務ハ既ニ増加シタルノミナラズ將來  
愈々増加スベク且追々困難ヲ加フベキ情  
況ニ在リ其ノ結果前陳歐亞局第二課ノ事  
務繁忙ヲ來シ現在ノ機構ニテハ其ノ處理  
ニ支障ナキヲ期シ難キニ至リタルニ由リ  
此ノ際同局ニ新ニ第三課ヲ設ケテ專ラ前  
掲ノ西南太平洋諸地域ニ關スル事務ヲ掌  
理セシムルコトトセントスルニ付此ノ新  
設ノ一課ニ配置スベキ書記官一人事務官

二人及屬四人ヲ増員セントス(二)近時外務  
省ニ於ケル電信事務ノ増加ニ伴ヒ其ノ機  
密ノ防護暗號ノ研究其ノ他電信關係ノ事  
務ヲ一層充實スルノ必要アリテ現在職員  
ノ定員ヲ以テシテハ不足ヲ告グルニ至リ  
タルニ由リ此ノ際主トシテ暗號編纂ノ爲  
メ電信官一人並ニ一般電信事務及暗號機  
械ノ操作ノ爲メ電信官補二人ヲ増員セン  
トス

第二朝鮮總督府官制中改正ノ件



本件ハ朝鮮總督府ニ於テ近頃管内ノ鑛業  
著シク活況ヲ呈スルニ至リ從テ之ガ助長  
取締ニ關スル事務甚ダ繁劇ト爲リタルニ  
由リ事務官技師各一人屬二人及技手六人  
ヲ增加シ漁業ノ發達ニ伴ヒ遠洋漁業ノ保  
護取締ノ必要増加シタルニ由リ其ノ監視  
船ノ職員ニ充ツベキ技師一人及技手三人  
ヲ增加シ重要輸出品ノ検査ニ關スル事務  
ニ從事セシムル爲メ屬及技手各一人ヲ增  
加シ新ニ内地外地ヲ通ジテ米穀自治管理

法ノ施行セララルルニ伴ヒ朝鮮ニ於ケル其  
ノ事務ヲ處理セシムル爲メ事務官二人技  
師一人屬二人及技手五人ヲ增加シ思想問  
題ノ調査研究及思想問題ニ關シ各道ノ學  
務機關ノ指導統制ノ爲メ事務官一人ヲ增  
加シ氣象觀測ニ關スル事務ノ爲メ技手二  
人原動機及自動車ノ取締等ニ關スル事務  
ノ爲メ技師一人市街地建築物取締ニ關ス  
ル事務ノ爲メ技師一人活動寫真フィルム  
檢閱及映畫取締ニ關スル事務ノ爲メ屬及

技手各一人、麻藥類ノ取締ニ關スル事務ノ  
爲メ屬及技手各一人並ニ血清及豫防液類  
ノ製造及配給ニ關スル事務ノ爲メ屬及技  
手各一人ヲ夫々増加シ以上合計事務官ニ  
於テ四人、技師ニ於テ五人、屬ニ於テ八人、技  
手ニ於テ二十人ノ増員ヲ行ハントスルモ  
ノナリ

第三臺灣總督府官制中改正ノ件

本件ハ臺灣總督府ニ於テ近頃管内ノ鑛業  
著シク増進シ其ノ事務繁劇ト爲リタルニ

由リ殖産局鑛務課ニ專任ノ課長ヲ置ク爲  
メ事務官一人、輻湊セル鑛業出願事件ヲ處  
理セシムル爲メ技手一人ヲ増加シ近ク米  
穀自治管理法ノ施行セラルルニ伴ヒ米穀  
ノ統制ニ關スル事務ノ爲メ新ニ殖産局ニ  
米穀課ヲ設ケントスルニ付其ノ課長ニ充  
ツベキ事務官一人、課員タルベキ技師一人  
屬二人及技手三人ヲ増加シ臺灣都市計畫  
令ニ依ル都市計畫ニ關スル事務ヲ處理セ  
シムル爲メ事務官一人、技師一人、屬二人及

技手二人、國有林野ニ於ケル森林施業案ノ  
實施ノ爲メ技師二人、屬一人及技手十三人  
犯罪ノ搜查ニ必要ナル鑑識施設ヲ充實ス  
ル爲メ技師屬及技手各一人、今回新設セラ  
ルル臺灣拓殖株式會社ノ業務ノ監督ニ關  
スル事務ノ爲メ屬二人、阿片及麻藥ノ取締  
ヲ一層勵行スル爲メ屬及技手各一人以上  
合計事務官ニ於テ三人、技師ニ於テ五人、屬  
ニ於テ九人、技手ニ於テ二十一人ヲ增加シ  
又新ニ新竹ニ地震觀測所ヲ設置セントス

ルニ付之ニ配置スベキ測候所技師一人及  
測候所技手二人ヲ増員セントスルモノナ  
リ

#### 第四臺灣總督府地方官官制中改正ノ件

本件ハ前述ノ米穀自治管理法ノ施行ニ伴  
フ米穀統制ノ事務ノ爲メ五州ニ配置スベ  
キ屬五人及技手五人、自動車取締ノ爲メ新  
ニ臺中及高雄ノ兩州ニ配置スベキ技手二  
人、前述ノ森林施業案實施ノ爲メ臺中州ニ  
配置スベキ技手一人以上、合計州廳ノ屬五

人同技手八人ヲ増加シ新ニ高雄港ニ於テ  
輸移入獸類ノ檢疫ヲ實施スル爲メ高雄州  
港務部ニ配置スベキ港務獸醫一人ヲ増加  
シ又從來判任官待遇ノ街庄長中奏任官待  
遇ニ昇シ得ル定員ハ二十人ヲ限度トシタ  
ルモ近頃地方ノ行政漸ク進展シ一層優良  
ナル人物ヲ任用スルノ必要アリテ街庄長  
ノ優遇ノ途ヲ擴ゲルヲ妥當トスルニ至リ  
タルニ由リ茲ニ右限度ノ定數ヲ三十人ニ  
増加セントスルモノナリ

### 第五關東局官制中改正ノ件

本件ハ關東局ニ於テ近頃度量衡取締ノ事  
務著シク増加シタルニ由リ屬及技手各一  
人劣性牡牛馬ノ去勢種牡牛馬ノ検査及牛  
馬籍ノ整理取締ノ爲メ技手一人農作物ノ  
病虫害ノ驅除豫防ノ爲メ技手一人漁業ノ  
保護取締ノ監視船ノ職員ニ充ツベキ技手  
二人竝ニ徵稅事務ノ適正圓滑ヲ圖ル爲メ  
屬通譯生各一人及稅務吏二人以上合計屬  
ニ於テ二人技手ニ於テ五人ヲ孰レモ増員

シ之ヲ本局關東州廳又ハ大連民政署ニ配  
置セントスルモノナリ

以上ノ五件ハ外務省朝鮮總督府臺灣總督府  
臺灣總督府地方廳及關東局ニ於テ各般事務  
上ノ必要ニ因リ職員ノ定員ヲ増加スル爲メ  
現行官制中ニ改正ヲ加ヘントスルモノニシ  
テ其ノ増員ニ要スル經費ハ現ニ本年度歳出  
豫算中ニ計上セラレアリテ別ニ支障ノ廉ヲ  
認メザルモノナリ

第六奏任文官特別任用令中改正ノ件

本件ハ二點ヲ含有ス(一)職業紹介法ノ従前  
ノ規定ニ依レバ内務大臣ノ監督ノ下ニ中  
央及地方ニ職業紹介事務局ヲ設ケテ全國  
各地ノ職業紹介所ノ事業ノ聯絡統一ヲ圖  
ラシメ職業紹介事業ハ内務大臣及職業紹  
介事務局ノ長之ヲ監督スルモノナリシガ  
大正十二年以來此ノ規定ヲ實施シタル實  
際ノ經驗ニ徴シ竝ニ其ノ後ノ事情ノ變更  
ニ考ヘ此ノ行政機構ニ改善ヲ加フルノ必  
要ヲ認メ昭和十一年法律第十二號職業紹

介法中改正法律ヲ以テ職業紹介所ノ事業  
ノ聯絡統一ハ内務大臣及地方長官之ヲ管  
掌シ職業紹介事業ハ内務大臣及地方長官  
之ヲ監督スルコトニ改メ本年九月一日ヨ  
リ此ノ新規定ヲ施行スルコトト爲リ之ニ  
伴ヒテ從來ノ職業紹介事務局官制ハ廢止  
セラレ中央職業紹介事務局ノ管掌事項ハ  
内務省所管ノ社會局ニ於テ之ヲ管掌シ地  
方職業紹介事務局ノ管掌事項ハ地方廳ニ  
於テ之ヲ管掌スルコトト爲リ從テ右官制

ニ依ル職業紹介事務局事務官ハ廢官ト爲  
リタリ(二)朝鮮總督府ニ於テハ大正七年以  
來朝鮮總督府林野調査委員會官制ニ依リ  
林野調査委員會ヲ設ケ朝鮮林野調査令ニ  
據リテ爲シタル林野及林野内ニ介在スル  
林野以外ノ土地ノ所有者竝ニ其ノ境界ノ  
査定ニ對スル不服申立ニ裁決ヲ與ヘ竝ニ  
其ノ査定及裁決ニ關スル再審ヲ爲スコト  
ヲ右ノ林野調査委員會ノ職務ト爲シタル  
モ今ヤ此ノ委員會ノ取扱事件ノ大部分ノ

處理ヲ了シタルニ由リ近ク該官制ニ改正  
ヲ加ヘ同委員會所屬ノ專任職員ハ書記一  
人ヲ除クノ外悉ク之ヲ廢止スルノ見込ニ  
シテ從テ同委員會副事務官ハ廢官ト爲ラ  
ントス然ルニ右ノ職業紹介事務局事務官  
及朝鮮總督府林野調査委員會副事務官ハ  
孰レモ奏任文官特別任用令中ニ掲ゲテ特  
別任用ヲ許スノ官ナルニ由リ茲ニ本件ヲ  
以テ同令列記ノ諸官中ヨリ此ノ二官ヲ削  
除セントスルモノナリ

相  
審  
院

按ズルニ本件ハ官制ノ改廢ニ因リ廢官ト  
爲ル奏任文官ニ付不要ニ歸スル特別任用  
ノ規程ヲ廢止セントスルモノニシテ別ニ  
支障ノ虞ナキモノナリ

第七朝鮮總督府海員審判所職員ノ任用ニ關  
スル件

從來朝鮮ニ於ケル海員懲戒ノ審判ハ一審  
制ニシテ其ノ審判機關タル朝鮮總督府海  
員審判所ノ職員ハ總テ朝鮮總督府官吏ノ  
中ヨリ之ヲ命ズルノ制ニシテ即チ補職ナ

リシガ今般審判ノ適正ヲ期スル爲メ内地ニ於ケル例ニ準ジ規程ヲ改メテ該審判ヲ二審制トシ其ノ審判機關トシテ同府高等海員審判所及同府地方海員審判所ヲ置キ且其ノ職員タル所長審判官理事官及書記ヲ總テ勅任奏任又ハ判任ノ官ト爲シ其ノ一部ハ專任者ヲ以テ之ニ任ジ一部ハ同府ノ官吏ヲ之ニ兼任スルコトトシ即チ純然タル官ト爲サントスルニ付其ノ所長勅任又ハ奏任竝ニ審判官及理事官奏任ニ關シ

テハ其ノ職任ニ考ヘ且内地ニ於ケル海員審判所職員任用ノ例ニ照シ特別任用ノ規程ヲ設クルノ必要アルニ由リ本件ヲ以テ朝鮮總督府高等海員審判所ノ所長ハ同府遞信局長ヲシテ之ヲ兼ネシムルモト爲シ朝鮮總督府高等海員審判所ノ審判官及理事官竝ニ朝鮮總督府地方海員審判所ノ所長審判官及理事官ハ海事ニ關スル同府遞信官署ノ高等官ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得ルモ



ノト爲サントスルナリ

按ズルニ本件ハ朝鮮總督府部内ノ特殊ノ  
文官ニ關シ實際ノ必要ニ由リ特別任用  
ノ規程ヲ設ケントスルモノニシテ別ニ支  
障ノ廉ナキモノナリ

右様ノ次第ニシテ以上七件ハ總テ此ノ儘之  
ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス

右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

三十三番(坂本)

唯今報告セラレタル臺灣總督

府官制中改正ノ件中ニ米穀統制ノ爲メ若干

ノ職員ヲ増加セントスアリ其ノ増員ニ付  
テハ別ニ問フノ要ナシ抑々米穀ノ統制ハ先  
年米價下落シテ農民ノ生活困難ナリシ際政  
府ニ於テ適宜之ヲ買上ゲテ其ノ價格ヲ維持  
セントシタルニ始マル然レドモ此ノ方法ハ  
米穀ノ調節ニ付豫期ノ效果ヲ齎サザリシノ  
ミナラズ國庫ハ之ガ爲メ已ニ數億圓ノ損失  
ヲ負擔セザルベカラザルニ至レリ然ルニ今  
又米穀自治管理法ナルモノヲ施行シテ果シ  
テ何程ノ效果アリヤ甚ダ疑シク寧口此ノ際

相  
密  
院

度政一新ノ一項目トシテ斯ル制度ハ刷新セ  
ラルベキニハアラザルヤト考フ當局ハ尚將  
來モ之ヲ繼續スル考ナリヤ總理大臣及農林  
大臣ノ御答辯ヲ請フ

十二番(島田) 米穀統制法制定ノ由來ニ付申述  
ブルコトハ此ノ際差控フベキモ其ノ實施ニ  
依リ相當ノ效果ヲ擧ゲタリ然レドモ唯今御  
質問ノ如ク或點ニ付テハ該法ダケニテハ圓  
滑ニ米穀ノ調節ヲ圖ルコト能ハザルノ憾ア  
リ殊ニ豊作ニ際會センカ政府ハ非常ニ多額

ノ支出ヲ爲シテ米穀ヲ買上ゲ且之ヲ貯藏セ  
ザルベカラズ其ノ結果御話ノ如ク相當多額  
ノ損失ヲ招クニ至ルコトアリ其ノ他種々ノ  
點ヨリ本制度改善ノ必要アルヲ認メ米穀調  
査委員會ヲ設ケテ調査セシメタル結果米穀  
統制ノ基礎ヲ自治ニ置キタル米穀自治管理  
法ヲ立案シ先般ノ帝國議會ノ議ヲ經テ公布  
セララルニ到レリ該法ハ生産者又ハ米穀取  
扱業者ノ團體ヲシテ自治的ニ米穀ノ管理ヲ  
行ハシメ其ノ力ノ足ラザルトキ始メテ政府

ニ於テ之ヲ買上ゲントスルモノニシテ米穀  
統制法ノ補強策トシテ本月二十日ヨリ實施  
セラレントス本官ハ之ニ依テ大體我國米穀  
ノ數量及價格ヲ調節スルコトヲ得ベシト考  
フ政府ガ斯ル方法ヲ以テ米穀ヲ統制スルコ  
トノ是非ニ付テハ從來或ハ米穀モ亦自由商  
品トシテ取扱フベシト論ジ或ハ國民生活上  
ノ重要品ニシテ主要農産物ナルガ故ニ國民  
生活ノ安定ノ爲メニ之ヲ統制スルノ要アリ  
ト論ジ長期ニ亙リテ議論アリシガ輿論ハ漸

次政府ニ於テ或程度ノ統制ヲ爲サザルベカ  
ラズト考フルニ至リ遂ニ現行統制法ノ制定  
ヲ見ルニ至レルモノニシテ當局ニ於テハ此  
ノ方法ヲ以テ内外ノ米穀ノ統制ヲ行フコト  
ガ最善ノ方法ナリト考フ

五番(廣田)

御質問ニ對シテハ農林大臣ヨリ答

ヘシ通ニシテ國民生活ニ最モ重要ノ關係ア  
ル米穀ヲ普通自由ノ商取引ニ一任スルコト  
ハ大ニ考慮ヲ要ス之ヲ農民ノ立場ヨリ云フ  
モ米價ノ亂高低ハ其ノ生活上ニ多大ノ不安

ヲ生ズルモノナルニ由リ此等ノ事情ヲ考慮  
シテ適當ニ統制ヲ加ヘ國民生活上ノ不安ヲ  
除去シタキ考ナリ

三十三番(坂本) 米穀統制法及米穀自治管理法

が果シテ所期ノ目的ヲ達シ得ベキヤ甚ダ疑  
問ナリト考フルニ由リ庶政一新ノ機ニ際シ  
テハ十分ニカヲ入レテ研究セラルベキモノ  
ナリト考フ政府が米穀調節ノ爲メ國庫金ヲ  
支出スルハ子ノ不行跡ノ始末ヲスル親ニ似  
タルノ感アリ尚一層適切ナル方法ナキヤ將

來トモ政究ヲ重ネラレ本官等ヲシテ意ヲ安  
ンゼシムル様取計ハレタシ

議長(平沼) 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ

省略シテ直ニ採決スベシ本案贊成ノ各位ノ  
起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ

本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

柑  
密  
院

(午前十時五十分閉會)

議長男爵平沼騏一郎

書記官長村 上 恭一

書記官

江 季雄

武 茂 盛 雄

勅令第 號

外務省官制中左ノ通改正ス

第三條中「二十六人」ヲ「二十七人」ニ改ム

第十二條中「外務事務官專任五十四人」ヲ

「外務事務官專任五十六人」ニ改ム

第十四條中「電信官專任七人」ヲ「電信官專

任八人」ニ改ム

第十六條中「專任百六十一人」ヲ「專任百六十五人」ニ改ム

第十七條ノ「中」電信官補專任二人」ヲ「電信官補專任四人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

朝鮮總督府官制中左ノ通改正ス

第十一條中「事務官 專任三十二人」ヲ「事務官 專任三十六人」ニ「技師 專任三十人」ヲ「技師 專任四十人」ニ「屬 專任二百二人」ヲ「屬 專任二百十人」ニ「技手 專任百十八人」ヲ「技手 專任百三十八人」ニ

改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十九條第一項中「事務官 專任二十三  
人」ヲ「事務官 專任二十六人」ニ「技師 專  
任三十六人」ヲ「技師 專任四十一人」ニ  
「屬 專任百九十五人」ヲ「屬 專任二百四  
人」ニ「技手 專任百十七人」ヲ「技手 專任

百三十八人ニ同條第二項中「技師三人及  
技手二十二人」ヲ「技師四人及技手二十四  
人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

臺灣總督府地方官官制中左ノ通改正ス  
第二條第一項中屬 專任四百四人ヲ屬  
專任四百九人ニ「技手 專任百五十八  
人」ヲ「技手 專任百六十六人」ニ改ム  
第四十六條第四項中「二十人」ヲ「三十人」ニ  
改ム



第四十八條中「港務獸醫 專任一人」ヲ「港務獸醫 專任二人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

關東局官制中左ノ通改正ス

第十四條第一項中屬 專任百四十八人  
ヲ屬 專任百五十人ニ「技手 專任七十  
二人」ヲ「技手 專任七十七人」ニ「通譯生  
專任二十六人」ヲ「通譯生 專任二十七人  
ニ」稅務吏 專任三十六人」ヲ「稅務吏 專

任三十八人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス  
職業紹介事務局事務官及朝鮮總督府林  
野調査委員會副事務官ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

朝鮮總督府高等海員審判所ノ所長ハ朝鮮總督府遞信局長ヲシテ之ヲ兼ネシム  
朝鮮總督府高等海員審判所ノ審判官及  
理事官並ニ朝鮮總督府地方海員審判所  
ノ所長審判官及理事官ハ海事ニ關スル  
朝鮮總督府遞信官署ノ高等官ヨリ高等

